シンポジウム II	気管食道科領域における鏡視下手術（ビデオ）
	食 道 系

特 別 発 言

鏡 視 下 レ ー ザ ー 手 術

井 上 鐵 三

Endoscopic Laser Surgery

Tetsuzo Inouye, M.D.

Department of Otolaryngology, National Defense Medical College, Saitama

Glottic carcinoma and subglottic and/or tracheal stenosis were treated with endoscopic laser surgery. Glottic T1 carcinoma can be treated by laser surgery alone. Patients with airway obstructions due to tumor underwent laser surgery to increase the airway lumen.

Laser surgery controls operative hemorrhages better than other procedures and can be done on an out-patient basis.

Key words : endoscopic surgery, laser therapy, laryngeal cancer, tracheal stenosis

1980年より、頭頸部領域におけるレーザーを用いた鏡視下手術を行い、その治療成績ならびに患者のQOLの向上などの点からも満足できる結果を得てきた^{1,2)}。

使用するレーザーの種類は、主にCO₂レーザー、Nd-YAGレーザー、KTP/532レーザーで、気管食道領域の腫瘍や瘢痕狭窄に対して、全身麻酔下あるいは局所麻酔下に治療を行っている。直達鏡下には主にCO₂レーザーを、また軟性ファイバースコープ下には、以前はNd-YAGレーザーを、最近ではKTP/532レーザーを用い、腫瘍や瘢痕の蒸散、切開、切除を最小限の出血で施行できる。特に、軟性ファイバースコープを用いた手術は、外来ベースで十分な治療を行うことができ有用である。

以下に主な症例を呈示する。

症 例

- 症例1：71歳女性、喉頭癌（T1a）
直達喉頭鏡下にCO₂レーザー使用（図1）
- 症例2：46歳男性、喉頭癌（T1b）
直達喉頭鏡下にCO₂レーザー使用（図2）
- 症例3：61歳男性、甲状腺乳頭癌にて甲状腺右葉切除術、気管・食道部分切除施行6年後の声門下の気管内再発
直達喉頭鏡下にKTP/532レーザー使用（図3）
- 症例4：63歳女性、甲状腺乳頭癌の気管内浸潤
気管支ファイバースコープ下にNd-YAGレーザー使用（図4）

以上、気管、食道領域における鏡視下レーザー手術について、完全治療を目的とした適応として、喉頭癌 T1a, T1b 症例および呼吸困難な

防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座

別刷請求：〒359 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校耳鼻咽喉科 井上鐵三

図1 喉頭癌症例

A : 術前, B : 術中, C : 術後 (122日), D : 術後 (395日)

図2 喉頭癌症例

A : 術前, B : 術中, C : 術後 (166日), D : 術後 (519日)

図3 気管側壁に浸潤した甲状腺癌
A:術前, B:術中, C:術後(90日)

図4 甲状腺癌症例
A:術前断層撮影, B:術前, C:術後(30日)

どの症状の寛解を目的として、甲状腺癌の気管内再発や気管内浸潤について報告した。

文 献

- 1) Inouye, T., Tanabe, T., Nakanoboh, M., et al.: Endoscopic laser surgery for subglottic

and tracheal stenosis. Trans. Am. Laryngol. Assoc., 63: 65-69, 1993.

- 2) Inouye, T., Tanabe, T., Nakanoboh, M., et al.: Carcinoma of the larynx: Role of laser surgery. Trans. Am. Laryngol. Assoc., 114: 121-127, 1993.